

「教育改革先取り対応セミナー」に参加しました。

8月2日（火）、ベルサール新宿グランド（東京都新宿区西新宿8-17-3）で開催された「教育改革先取り対応セミナー」に参加しました。このセミナーは、日本教育新聞社とナガセが主催して、8月1日～22日に全国12会場で開催されています。私は、8月2日の東京会場に参加しました。本校からは、私以外に、早川先生・鮎川先生・関先生が参加しました。8月1日の千葉会場には石井先生が参加しています。教育改革に積極的に対応し、並木中等をより良くしていこうという本校の先生方の意欲を感じました。

まず、会場の広さに驚きました。何と約1000名の参加者だそうです。私は、東京でのAL関係セミナーによく参加しますが、150名～300名が普通です。全国12会場を合わせると参加者が約6000名になると聞いて、その規模にビックリしました。

また、登壇者も凄かったです。来賓として文部科学省の前川喜平事務次官がお見えになりました。前川事務次官からは、「新テストなどできるだけ早く新しい仕組みを伝えていきたい。」「アクティブ・ラーニングには様々な方法があつていい。」「テスト勉強なしでも大学に入れる仕組みも作りたい」「本丸は大学改革である」という話がありました。

基調講演は、文部科学省の鈴木寛大臣補佐官でした。鈴木補佐官からは、「アクティブ・ラーナーにしていくことが大切」「150年ぶりの教育改革」「全ての教科をアクティブ・ラーニング的に再編成する」「文章を書くことが大切」という話がありました。

そして特別講演として京都大学・高等教育研究開発推進センターの松下佳代教授の話が聴けました。松下教授は、『ディープ・アクティブラーニング』（2015.1）の著者です。最近、文部科学省が「アクティブ・ラーニング」を「主体的で対話的な深い学び」と説明している背景には、松下教授の理論があると考えられます。また、「小学校から大学までアクティブ・ラーニングという同じ言葉で語られるのは、日本の教育改革では、大変まれなことである」という話を聴いて、ますますALの重要性を感じました。



◆会場に早く着いたので、近くの東京都庁に行きました。都庁の正面玄関で、7月31日（日）の都知事選で当選した小池百合子知事の初登庁を見学することができました(^_^)v。